

6-12 工学研究科 建築学専攻

Graduate Program in Architecture

工学研究科 建築学専攻の学位授与に関する方針

建築学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士(工学)の学位を授与する。

- ① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、建築学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
- ② 創造性を発揮する建築学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
- ③ 建築学の知識を基盤とした、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
- ④ 高い倫理観を持ち、建築学分野の技術者として活躍できる能力

科目群の主な学習・教育目標

- 建築の立地条件の特徴を活かし、計画コンセプト・施設プログラムを組み立て、適切な空間構成や建築形態に発展させることができる。
- 都市計画とその実践プロセスに関する知識を修得し、都市的視点で建築を考察し、設計・計画することができる。
- 生態学的持続可能性の重要性を理解し、環境保全、修復、保存再生に関する知識を得ることができる。
- 建築施工技術を包括的に理解し、建築構法に関する知識を得ることができる。
- プロジェクトを推進するために求められる環境計画、構造計画、施工技術、その他関連する技術の理解を深めることができる。
- 人間と建築、建物相互、および周辺環境の空間を理解し、これらに適切なスケールと空間の質を与えることができる。

- 建築の歴史、設計理論、また建築に関連する芸術・工学・人文科学などに関する知識を得ることができる。
- 快適で安全な建築環境を実現するための建物性能技術に関する知識を得ることができる。
- 建築関連産業、予算、法的制約等を理解し、総合的な視点で建築を設計し工事費管理を行う基礎的知識を得ることができる。
- 文献・実地調査により、総合的に建築を分析・考察する能力を身につけることができる。
- さまざまな知識や技術を総合化し、社会が求める課題に対して建築的提案をすることができる。
- 機能的・居住性・意匠性・維持管理性など、建築に求められる諸要求に応えた設計・計画をすることができる。
- 研究成果を論文や作品にまとめ、その内容を論理的かつ魅力的に説明することができる。
- 協働社会の一員として、建築の設計・計画全般を推進し調整する能力を養うことができる。
- 建築設計・計画の職能とその社会的使命を理解することができる。
- 学生・教員相互のコミュニケーションにより学習・研究・教育方法について研鑽を行う。
- 学習・研究・教育方法について、学生・教員双方がそのプロセスや成果について意見交換を行い、教育研究プログラムの特徴が活かされるよう継続的な内容の見直しを行う。

博士前期課程

	前学期		後学期
1年次	● 建築計画設計演習 ④		
	● 都市・空間デザイン特論 ②		
	● 建築情報特論 ②		
	● 建築生産特論 ②		● 建築意匠特論 ②
	● 建築環境設計演習Ⅰ ②		● 建築史特論 ②
			● 建築再生特論 ②
			● 景観論特論 ②
	● 建築構造計画演習 ④		● 建築環境設計演習Ⅱ ②
	● 建築構造解析特論 ②		
	● 建築設備特論 ②		● 建築構造設計演習 ③
	● 都市環境特論 ②		● 建築動的設計特論 ②
			● 建築材料特論 ②
	● コーオププログラム ④		● コーオププログラム ④
	● コーオププロジェクト ②		● コーオププロジェクト ②
1年次・2年次	● 建築学専攻特別講義 ②		● 建築学専攻特別講義 ②
	● 建築インターンシップ A ③		
	● 建築インターンシップ B ⑦		
	● 建築設計・意匠研究(修士設計) ⑫		
	● 建築設計・意匠研究(修士論文) ⑫		
	● 都市・地域計画研究 ⑫		
	● 空間構築研究 ⑫		
	● 建築構造研究 ⑫		
	● 建築環境・設備研究 ⑫		

博士後期課程

	前学期		後学期
1年次	● 建築学特論 ②		● 企業価値とイノベーション ②
	● リサーチインターンシップ ④		
1年次・2年次・3年次	● 建築設計・意匠特殊研究 ④		
	● 都市・地域計画特殊研究 ④		
	● 空間構築特殊研究 ④		
	● 建築構造特殊研究 ④		
	● 建築環境・設備特殊研究 ④		

● 関係科目 ● 専修科目(修士研究) ● 主要科目 ● 特別科目 ● 特殊研究
いずれか1科目を選択し、必修とする

○付数字は単位数を表す